



十中だより

令和3年7月9日
文責 奈加晃典

めざす生徒像

- ☆自ら進んで学び、考えて行動できる生徒(確かな学力)
- ☆勤労と責任を重んじ、礼儀正しく協力できる生徒(豊かな人間性)
- ☆自他の生命を尊重し、心身を鍛える生徒(健やかな体)

校訓

自主 協働 剛健

通知表が変わります

中学校の学習指導要領（文科省が出している、教育課程を編成する際の基準が書かれているもの）が改訂になりました。それに伴い、観点別評価の観点も大きく変わることになりました。

昨年までは、教科ごとに観点が違っていました。今年度から全ての教科において同じ3つの観点に沿った評価をし、評定を出すことになりました。たとえば理科を例にあげますと、昨年までは「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」「自然事象についての知識理解」という4つの観点に沿って評価をしてきたわけですが、今年度からは全教科において「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」という3つの観点に沿った評価になります。本校の通知表もそれに沿った形に変更になりますので、お知らせください。

今までの学習指導要領は平成20年に改訂されたものであり、当然時代は刻々と変化しています。3年生の進路説明会でも言わせていただきましたが、「近い将来、65%の子どもたちは今はない職業に就き、47%の仕事は自動化される」と言われ、世界が驚いたのが、実は10年前になります。ちょうど今の中学生が世の中に出ていき、社会を担っていく頃になるかと思えます。携帯電話が登場したかと思えば、スマートフォンになり、小学生の就きたい仕事ナンバー1がYoutuberになるとは、少し過去を振り返りますと、想像すらできなかったことです。

このように、刻々と変化していく世の中に対応し、必要な力をつけていくために、学習指導要領が改訂されます。「学歴」というものが問われていた時代は終わり、「何をどのように学び、何ができるようになるか」が大きく問われる時代になっていこうとしています。

AI（人工知能）が人の代わりに色々なことをこなす時代になっても、人にしかできない、あるいはその人だからできる力を身につけていかなければなりません。そんな時代を担っていく、彼ら彼女らに「将来に活かすことのできる学び」を実現させていきたいと思えます。



修学旅行について

今年度も北海道への修学旅行は断念し、四国方面への修学旅行とさせていただきます。期日は9月27日（月）～30日（木）までの3泊4日の旅となります。

昨年と大きく変わることはありませんが、密を避けるために、五條からは大型バスに乗り換え、四国方面へ走ります。1日目は野島活断層やうずしおを見学し、琴平温泉での宿泊となります。2日目は、こんぴら宮に参拝後、さぬきうどん打ち体験をし、吉野川でのラフティング（天候不良時はレオマワールド）を楽しんだ後、高知の土佐で宿泊します。3日目は、かつおのたたき体験をし、坂本龍馬記念館、桂浜水族館を見学します。最終日はフェリーで和歌山港に渡り、帰ってくるという行程になります。1学期末にある三者懇談の場でも、担任から説明があると思います。つい先日も東京では900人を超え、デルタ株の蔓延が心配されています。全国民がワクチン接種を終え、安心・安全な日々が一日も早く戻ってくれることを祈るばかりです。



中体について

先月号でも書かせていただきましたが、今年度は中体をおこないません。先月の時点では、原則無観客での試合となっていました。ガイドラインを見直し、種目や会場によっては観客を動員する形となりました。先日、一覧表を配布させていただきました通りとなります。東京での緊急事態宣言の再発表や、今後の関西へのデルタ株の影響等により、再度の変更等もあり得ますが、中学校体育連盟からのガイドラインに沿った形での観戦にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

令和4年度県立高校入学者選抜について

新たな学校・学科・コースが新設されています。先に述べたように、「何を学び、何ができるのか」を問われる時代を見据え、各校特色のある学科やコースを打ち出しています。eオープンスクールなどを積極的に活用し、「自分は何に興味を持ち、何をしたいと思うのか」をしっかりと考え、将来の切符を手に入れることができるよう、頑張りましょう。

先日、県教育委員会より、標記の概要が届きました。毎年、高等学校の再編が進み、

